

【資料 4】 コロナ禍で顕在化した課題について（事務局まとめ考察）

○主な課題の例

【密になる催事は中止。屋外への需要】

- ・三密が生じる可能性があるイベント・催事は中止。実施できない状況にある。
- ・アウトドア需要が大きく高まっている。高まり過ぎて密を心配する声もある。

【事業者新しい課題が発生】

- ・店舗（特に城下町）によって事業の好不調の差が生じている。
- ・宿泊者数は激減。
- ・感染症対策を講じている店舗、講じていない店舗などばらつきがある。
- ・平日と土日の客数の違いがこれまで以上に大きくなっている（平準化できていない）。
- ・事業者同士の情報共有・意見交換の仕組みがない。

【苦情の内容に変化が】

- ・感染に対する恐れに関する住民や観光客からの苦情・不安の声が聞かれる。

【観光施策にも影響】

- ・公共駐車場収益の大幅な減。
- ・予算が削減。
- ・宣伝活動の自粛、観光に関する会議等が中止に。
- ・鵜飼事業は観覧者数が激減。

○考 察

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本市においても従来には無い課題が発生することとなった。主な課題として大きく4点計上している。

1 点目、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念から、感染症拡大を広げる可能性がある大規模イベント・催事は実施できなくなった（犬山祭、花火など）。

屋外(アウトドア)への需要は大きく高まり、栗栖園地などには多くの人が訪れているが、来訪者が多くなり過ぎて過密になるという懸念も生じている。八曾モミの木キャンプ場は、施設運営者の判断により密になるリスクを考慮して閉鎖している状況。

2 点目、城下町を中心に、店舗にこれまでは無かった課題(問題)が発生している。

緊急事態宣言下においては、好調な店舗、不調な店舗の差が出ていた。宣言時においては、地元住民に普段から利用されている店舗はある程度来客があったが、そうした繋がりがあまりない店舗は厳しい状況にあったもようである。宣言時でも集客のあった店は、地元から愛され、応援・支援しよう、という意味での来訪もあり、遠方からの観光客が無くなった状況で、顕在化したものと思われる。

また、感染症対策をしっかりと講じている店舗、そうでない店舗の間でも好不調が生じて

いるようであり、お客様が訪問先に「安心安全」の点を重要視していることが窺える。

また、事業者同士をつなぐ体制、仕組みが無い為、店舗間での情報共有や意見交換ができず、孤立する店舗もあった。

加えて、9月になり少しずつ観光客が増えている状況ではあるが、平日は依然として非常に厳しい状況であり、土日と平日の差が従来以上に激しくなっている。これは、従来平日を埋めていた団体客及び外国人観光客がほぼゼロになっていることも要因として考えられる。

宿泊者数は激減している。元々、主要宿泊施設である名鉄犬山ホテルが令和元年8月末に閉鎖・建替えとなり、厳しい状況であった（1月時点での対前年比約40%）が、コロナの影響によりさらに減少している（3月約17%、4月約7%、5月約4%、8月約16%）。8月末の時点ではGO to トラベルの効果は限定的である。コロナ禍においても宿泊地として選ばれる状況にはなっていない。

3点目、住民や観光客からの苦情の内容に変化が生じている。

これまでは、渋滞や混雑、ごみのポイ捨て、臭気、騒音など、人が集まることで起きる様々な問題に対しての苦情が多くあったが、コロナ禍では「密になっていること」に対する不安の声が聞こえてくるようになった（観光客が増え密になっている不安、事業者・観光客でマスクをしていない人に対する懸念など）。

4点目、市の観光振興施策にも影響が発生している。

観光振興の財源である公共駐車場の収入が大きく落ち込んでいる。また、コロナ禍では観光関連事業が実施できず、予算が削減（補正によって）され、コロナ対策に回されるなど、非常に厳しい状況。誘客宣伝活動も例年通りに実施できていない。加えて観光戦略会議、まちづくり会議なども中止となっている。

本市の主要観光コンテンツである「木曾川うかい」は観覧者数が低調であり、非常に厳しい状況にある。8月末までの時点で約1,000人（R1同時期は約13,000人。対前年比約7%）。名鉄犬山ホテル閉鎖、コロナ禍において屋形船が敬遠される傾向にあることなどによる。

■コロナ禍で顕在化した課題について（まとめ）

【資料4】

番号	課題の種別	顕在化の時期等	概要	課題の具体的内容（詳細）	課題発生の要因（犬山市において）	発生場所（国・地域・県・市等）	出典等
1	事業開催	4月～	大規模イベントは中止に	大規模イベント開催は3密の恐れがあり、犬山祭や花火など恒例の行催事が実施できない状況になった。	祭、花火等の催事は多数の観客により密集状態となるため。	全国	各種報道 市調査
2	入込客数	4-5月	観光地から人が消える	緊急事態宣言の発出等（R2.4.10愛知県）により、移動制限が要請され、4/11から観光駐車場、観光案内所、犬山城、各種観光施設が閉鎖。犬山市でも来訪者が激減。	緊急事態宣言発出により外出が自粛され、公共施設も閉鎖したため。	犬山市	市調査
3	入込客数	4-5月	感染症対策で、観光施設を閉鎖せざるを得ない状況となる	観光客に移動の自粛を求めても来る人は来てしまうので感染拡大を防ぐためには、少なくとも公共施設は閉鎖しリスクを減らす必要がある。民間の観光施設（リトル、モンキー、明治村など）も一時期は臨時休業となる。	外出自粛の要請等国施策との連動、感染拡大を防ぐ必要があるため。	犬山市	市調査
4	観光施策	4月～	観光関連の事業実施が困難に	4月以降、誘客宣伝活動が非常に難しい状況に。市が推進する体験型観光メニューづくりを始めとしたシェアリングエコノミー事業も営業や普及等の活動が行えず、進捗が厳しい。観光に関する会議の開催もコロナ前のように出来ておらず影響が出ている。	三密回避の観点から、施策事業の実施に遅れや内容の見直しが必要となっているため。	犬山市	市調査
5	住民との共生	5月	観光公害の声が聞こえなくなる	観光客激減により、道路の混雑、交通渋滞、ゴミのポイ捨て、イベント時の騒音、飲食店の臭気など、近隣住民から寄せられていた苦情が無くなる。これにより「このままの状況がいい」と発言する住民もいる（一方でかつてのシャッター通りを思い出し、不安に思う住民もいる）。	コロナ禍で観光客が減り、暮らしやすいと感じる人もいることから。	犬山市	市調査
6	事業者経営	5-7月	閉店する事業者が発生する	本町通りにて閉店する事業者が発生している（土産物店、飲食店。閉店事由の詳細は不明）。	コロナ禍で観光客が減少。一部店舗では影響を受けたとみられる。	犬山市	市調査
7	事業開催	5月	屋内というフィールドでの観光事業展開が難しくなった	ライブハウス、ドーム球場、ホールなど、感染症拡大の状況下においては、三密回避ができず、防疫体制も整わないことから、屋内でのイベント開催が出来ない状況となっている。屋外であっても大規模イベントの実施は困難な状況	屋内催事は密集・密接・密閉となり、感染リスクを高めるため。	全国	各種報道
8	ニューノーマル	6月～	アウトドア需要の高まり（キャンプなど）	新たな視点での犬山の魅力がクローズアップされるのは良いことだが、コロナ禍で栗栖園地、八曾キャンプ場に人が集中し、密集状態になることは懸念される。	密を避けた楽しみを求める人が増加していることから。	犬山市	市調査
9	事業者連携	5-6月	事業者同士での連携（情報交換）が困難に	城下町の店舗は例えば組合のような組織がないため、店舗間での情報の伝達が難しい。情報共有（意見交換）もできず、不安に思う事業者も複数いる。	情報共有（意見交換）のための仕組みが無いため。	犬山市	市調査
10	事業者経営	6月～	感染症対策を講じる店舗にばらつきがある。	城下町の店舗では感染症拡大防止の対策をしっかりと講じる店舗がある一方で、取組みが十分とは言えない店舗も見られ、対応にばらつきが生じている。	地域全体での意思統一の機会や仕組みがないため。	犬山市	市調査
11	観光施策（予算）	4月～	公共駐車場の使用料収入が減少	R2年度収入予測は4,000万円減（9月補正予算減）。年間で対前年比69%の見込み（9月時点）	コロナ禍で観光客が減少したため。	犬山市	市調査

■コロナ禍で顕在化した課題について（まとめ）

【資料4】

番号	課題の種別	顕在化の時期等	概要	課題の具体的内容（詳細）	課題発生の要因（犬山市において）	発生場所（国・地域・県・市等）	出典等
12	観光施策（予算）	5月～	観光関連予算は削減の方向に	感染拡大が懸念される状況下では、住民への安心安全対策が最優先されること、及び観光関連のイベント・誘客宣伝活動が中止となったことから、観光予算は基本的に削減の対象となった。	観光関連事業の中止、住民へのコロナ対策を優先していることから。	犬山市	市調査
13	事業者経営	7月末	八曾モミの木キャンプ場、混雑によるコロナリスク回避のため当面休業を発表（7.27）	コロナ禍でアウトドア需要の高まりから施設予約が多くなっていたが、県内でコロナウイルス感染者が多くなってきていることから、関係者への感染リスクを回避するため休業を決定	感染症拡大のリスクを回避する必要があると事業運営者が判断したため。	犬山市	市調査
14	住民との共生	4月～	緊急事態宣言発出以降、マスクをしていない観光客を見かけると不安になる市民が増えた。	観光課に対し、マスク着用の有無など感染症拡大を懸念する市民からの通報が増えた。	感染症拡大に関する懸念を感じている住民が増えているため。	犬山市	市調査
15	事業開催	3月～	市内の催事が次々と中止となった	3密の恐れがある催事についてはコロナ禍で実施が困難となり主催者判断による中止が相次いだ。	感染症拡大を防止する観点から。	犬山市	市調査
16	入込客数	5月26日～8月	緊急事態宣言解除後、休日は6～8割ほどまで観光客の戻りがあるが、平日の来訪者が戻ってきていない。	インバウンド？の影響もあるか。団体客はほぼ無い状況（店舗に聞取りしたところ、団体出来ていた中年～高齢層（40代以上）は見なくなったとのこと）。土日と平日の差がコロナ以前よりも顕著に	コロナ禍の影響。外国人観光客及び団体客が無くなっており、自粛の雰囲気も残ることから。	犬山市	市調査
17	感染症拡大	7月	店舗の感染症対策	観光客から、城下町の事業者でマスクをしていない人がいると苦情の投書あり。頑張っているのに一つの店舗で観光地全体のイメージが壊れると指摘。	感染症拡大を懸念する住民、観光客が増えていることから。	犬山市	市調査
18	住民との共生	5月～	住民からの苦情の内容に変化が生じる	コロナ前は混雑、渋滞、騒音、臭気など賑わいがもたらす苦情が多くあったが、三密回避や感染症拡大のリスクに関する不安の声が多く聞こえるようになっている。	感染症拡大を懸念する住民、観光客が増えていることから。	犬山市	市調査
19	インバウンド	5月～	インバウンド需要を見込んでいた観光地は極めて厳しい状況に	高山、白川郷などを始めとして、外国人観光客を積極誘致していた観光地（自治体）は、インバウンドが消滅し厳しい状況下にある。	集客の多くがインバウンドによる需要で賑わっていた観光地が多いことから。	全国	各種報道
20	連携の仕組み	5月～	行政・事業者・住民の情報発信・共有の方法（仕組み）がない	行政から事業者全体へ、事業者全体から行政へ、という声を届ける、共有する仕組みがないため（一部キャンペーン時に通知は可能。協会会員への連絡も可能）、情報共有のための発信や改善のための取り組み方法を協議・検討する機会がない。	行政、地元住民、事業者間での繋がりが十分でないため。	犬山市	市調査
21	事業者経営	5月～	事業者によって好調不調の違いが顕在しつつある。	コロナ禍においても引き続き集客が出来ている事業者（店舗）と、営業が厳しい事業者の違い（差）が生まれている。もともと地域（地元）に愛され・利用されている店舗、感染症対策を講じている店舗などは比較的集客が出来ている。	コロナ禍でも集客できる店づくりが出来ているか、いないかにより差が生じたため。	犬山市	市調査
22	事業開催	5月～	TMOが実施するイベントも中止に	まちづくり株式会社が実施する酒まつり（ビールまつりなど）はコロナの影響で中止に	感染症拡大防止の観点から。密集を避ける必要があるため。	犬山市	市調査

■コロナ禍で顕在化した課題について（まとめ）

【資料4】

番号	課題の種別	顕在化の時期等	概要	課題の具体的内容（詳細）	課題発生の要因（犬山市において）	発生場所（国・地域・県・市等）	出典等
23	入込客数	8月	木曾川うかい乗船者数が激減	鶉飼開きは例年（6/1）には実施できず、6/19からの開催となったが、客数は伸びず、非常に苦しい状況に。8月末までの時点で約1,000人（R1同時期は約13,000人。対前年比約7%）。	コロナ禍で客足が遠のいたこと、7月は大雨が続いたこと、名鉄犬山ホテル閉鎖が影響したことから。	犬山市	市調査
24	事業者経営	9月	9月のシルバーウィークは観光客が増加。再び住民からの苦情が入る	9月19日～22日の四連休は感染者数が減少傾向の中、多くの観光客が来訪。駐車場が満車となり渋滞が発生し、住民からは多数訪れる観光客に関する苦情が複数入るようになる。	「活気」が住民にとっては「混雑」、苦痛になるケースがあり、共存の仕組みが十分に出来ていないことから。	犬山市	市調査
25	事業者経営	3-8月	宿泊者数は大幅に減少	市内宿泊者数は名鉄犬山ホテルの閉鎖・建替えにより、1月の時点で前年比約40%となり、厳しい状況であったが、コロナの影響が拍車をかけ減少となった。3月17.2%、4月約7%、5月約4% 8月16.6%など。	もともと宿泊が弱いという状況にあったが、主要ホテルの閉鎖、コロナによる自粛が拍車をかけたことから。	犬山市	市調査